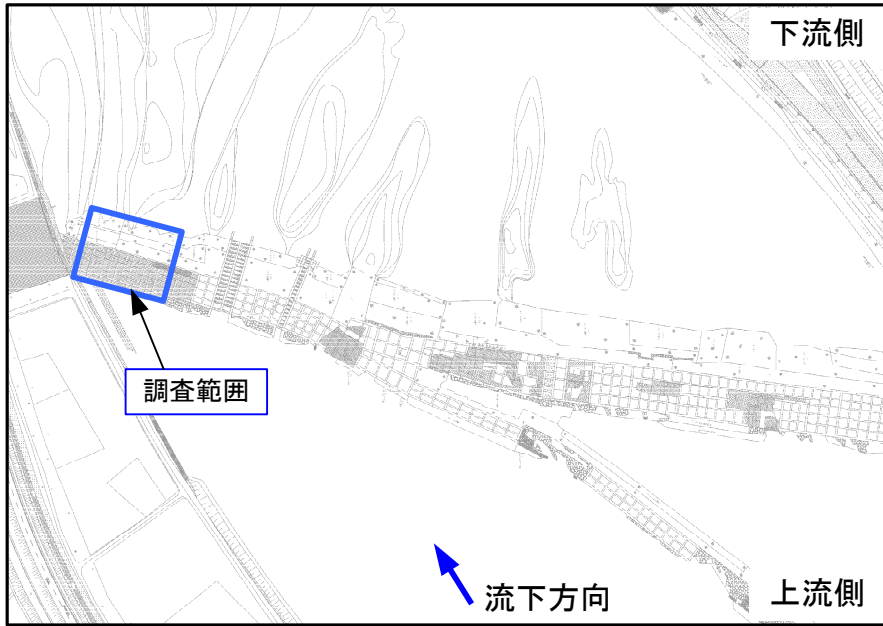


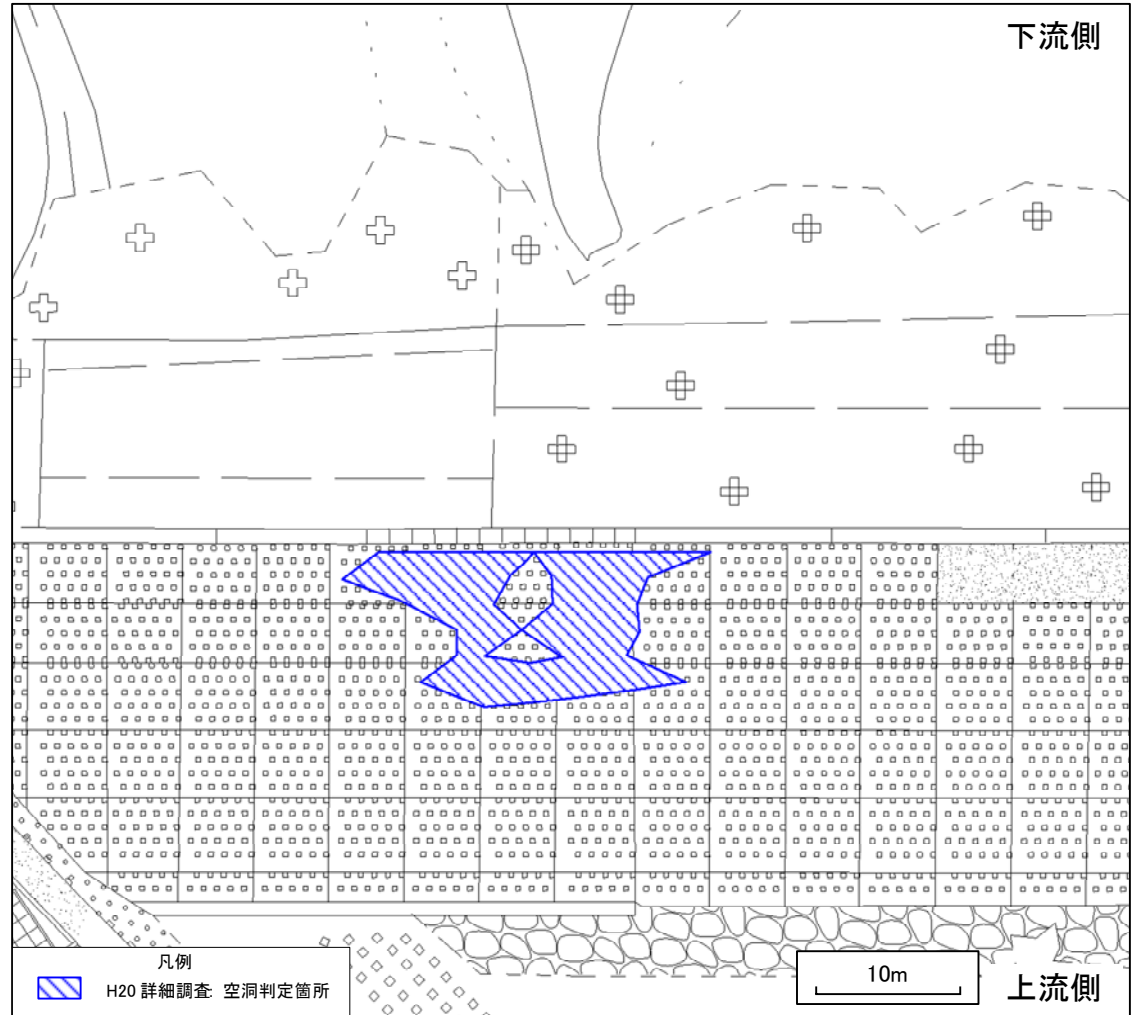
別紙一1

変状調査(空洞化調査)

# 第十堰下堰左岸下流側の空洞化範囲(1)

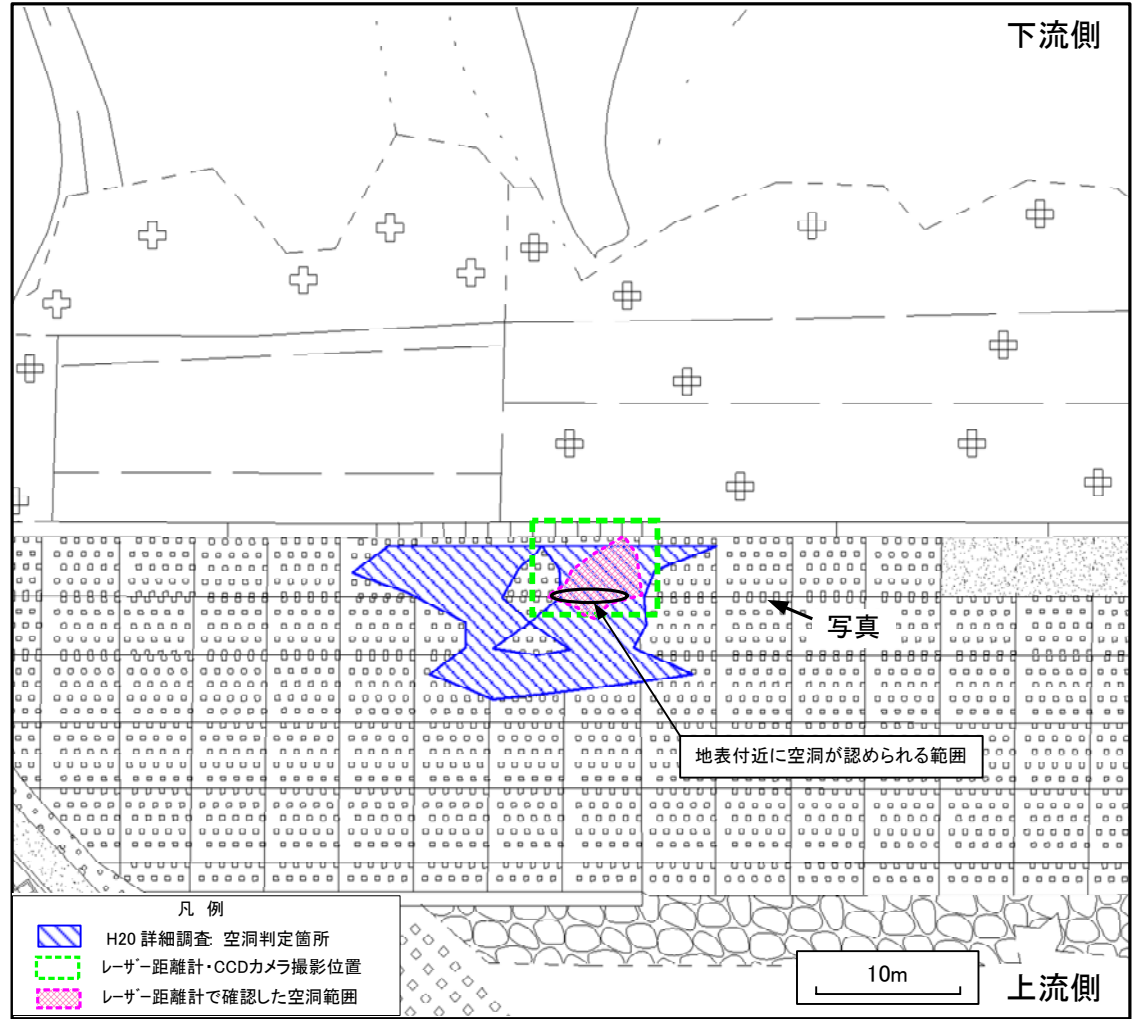
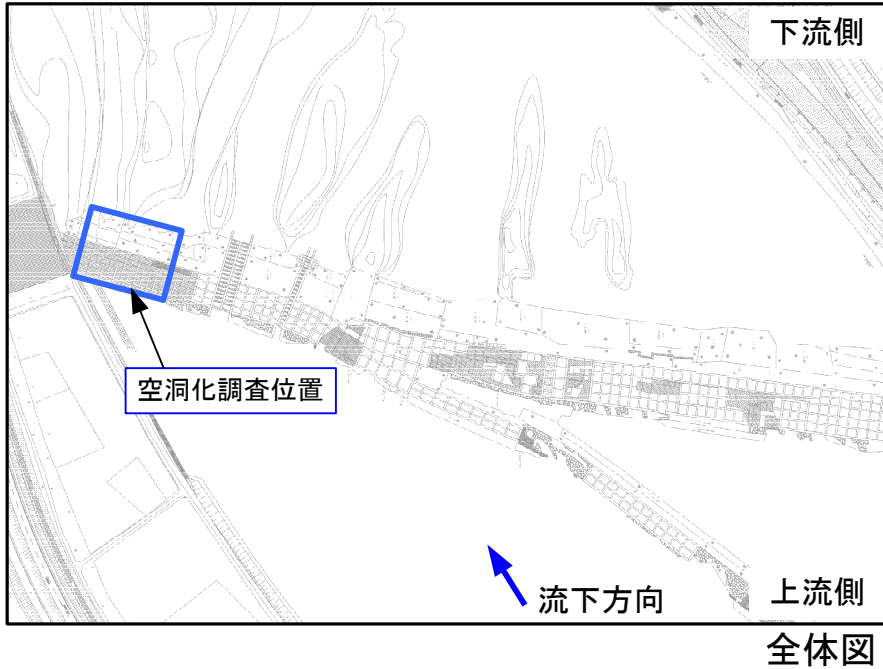


全体図



空洞化調査結果図

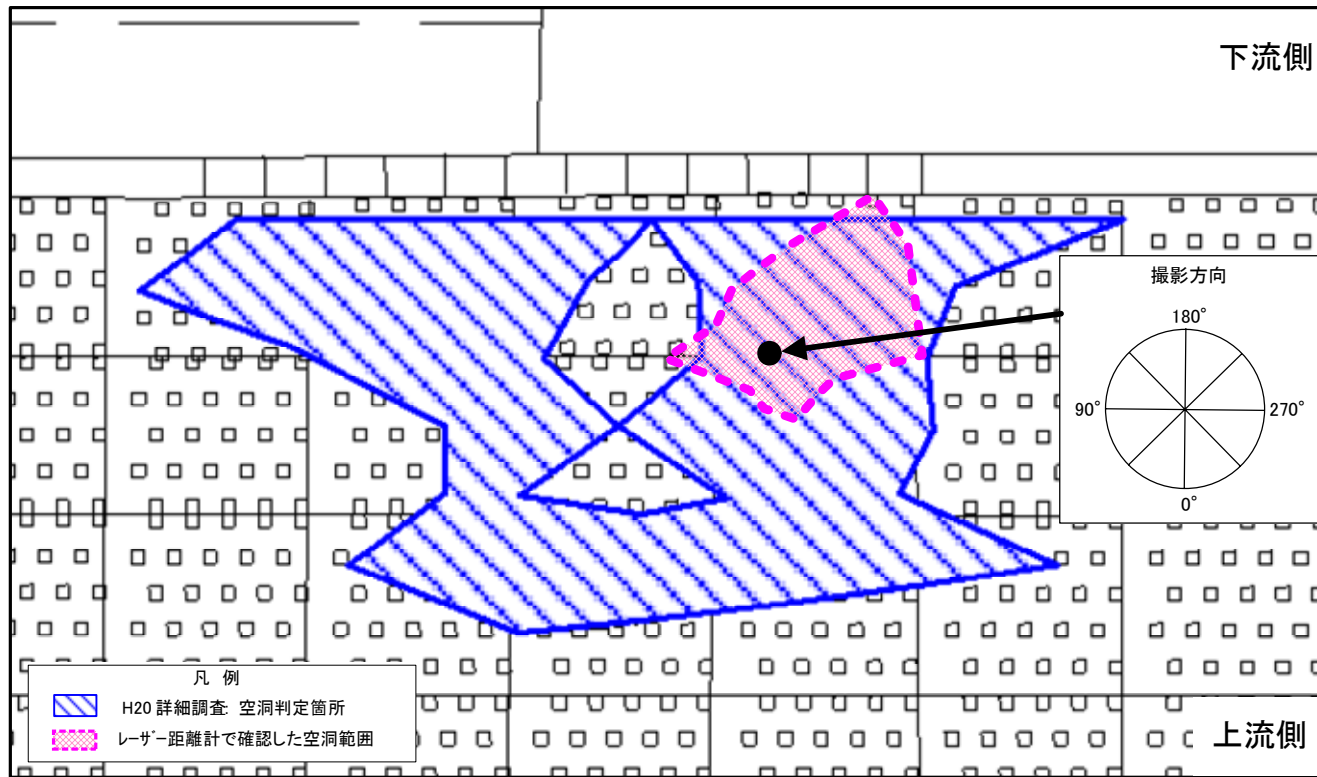
# 第十堰下堰左岸下流側の空洞化範囲(2)



空洞位置写真

空洞化調査結果図

# 第十堰下堰左岸下流側の空洞化範囲(3)



空洞化調査結果図

《上流側観察結果：0° 方向》

- 全体に細粒分を含み、φ20~30mm程度の円礫を主体とする土砂が分布する。
- 空洞は土砂により閉塞している。

《左岸側観察結果：90° 方向》

- 細粒分の少ない、φ20~30mm程度の円礫を主体とする土砂が分布する。
- 周辺には植物根や堰構築時に用いた松杭片が散在し、空洞は閉塞している。

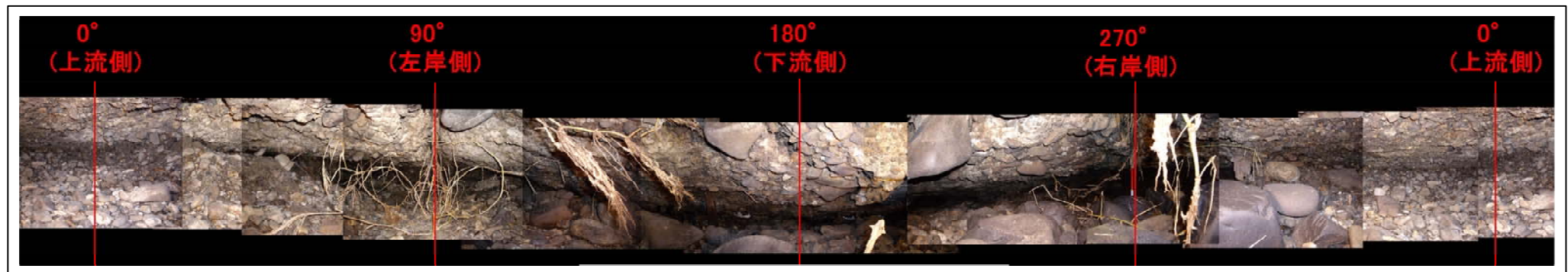
《下流側観察結果：180° 方向》

- φ100~200mm程度の玉石を主体とする土砂が分布する。
- 空洞は下流側に向かって伸びている。

《右岸側観察結果：270° 方向》

- φ100~300mm程度の玉石を主体とする土砂が分布する。
- 空洞は3m程度の奥行きがあるが、端部は土砂により閉塞している。

空洞内部観察結果



空洞化内部展開画像